

部局名

地域資源創成学部金岡研究室

担当：金岡保之



テーマ

宮崎県日向市によるトーゴ共和国のホストタウン事業

研究室では、「地域の国際化」をメインテーマとして、宮崎県の魅力的な地域資源を国内はもとより全世界に情報発信をする有効的な手法の構築を目指している。日向市役所をはじめ、県内教育機関、公官庁、外国政府機関、公共団体などと協働し、地域の活性化のためにプロジェクトを立ち上げ、実践的に研究・教育を行っている。その一環としてのプロジェクトが「宮崎県日向市によるトーゴ共和国のホストタウン事業」であり、相手国からの訪問団と県民による文化交流を通じて相手国の文化や歴史を理解し、その上で相手国への国際協力として、井戸修復・トイレ整備、図書寄贈などを行っている。

### 日向市がホストタウンになったきっかけ

「地域の国際化」の研究の一環で、地域にグローバルインパクトを与えるために、2017年7月に、金岡研究室は一般社団法人日本トーゴ友好協会(金岡研究室内)やJICAの協力を得て、セダミストーゴ共和国臨時代理大使を語感が似ている宮崎県日向市東郷町に招へいた。地域の国際化を目的に、十屋幸平日向市長とセダミヌ大使の「ひょっとこ踊り(日向市の伝統芸能)」共演ビデオなどを研究室のホームページなどで公開したところ、内閣官房東京オリパラ推進本部事務局の担当職員が見つくて、ホストタウン締結のきっかけとなった。

### ホストタウン事業とは

2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるホストタウン事業は、スポーツの振興、教育文化の向上および共生社会の実現など、さまざまな分野でレガシー創出につなげることを目的としている。特に宮崎県日向市とトーゴ間で行われるホストタウン事業は、ホストタウンの相手国が少ないアフリカ大陸、中南米におけるホストタウンの取り組みの、質の向上および交流の活性化を目指すものである。後に、ホストタウン功労者として、東京オリパラ担当大臣から感謝状が授与された。

### これまでの主な交流

#### ① 女性アスリートモデル事業(2019.3.6~3.10)

トーゴから女性アスリート、打楽器演奏のエンターテイナー、トーゴ日本友好協会代表者の3人と駐日トーゴ大使館外交官2人の計5人のトーゴ人の訪問団が日向市を訪問し、市民交流を行った。

#### ② 第7回アフリカ開発会議(TICAD7)サイドイベント(2019.8)

TICAD7のサイドイベントに、当研究室は日向市と参加し、日向市の橘ひょっとこ踊り保存会とジャンベ演奏グループメンバーが連携して音楽とダンスで全国のホストタウン関係者と交流。

#### ③ ホストタウン各種国際交流イベント

アフリカ・トーゴ理解セミナー(宮崎大学)、ALL MIYAZAKI スポーツ&ホストタウンフェスタ(宮崎県)、ダンスDE国際交流 with TOGO(日向市)、スポーツ大臣・パラアスリートとのオンライン交流、日向市東郷学園とパラアスリートとのオンライン交流など



### 国際協力事業

トーゴは後発発展途上国であり、2017年時点で国民全体の約35%の人々(当時の270万人に相当)に公衆衛生上安全な水への容易なアクセスが行き届いておらず、特に郊外ではその割合が高く、長距離に及ぶ水汲みや汚水を利用するなどの現状がある。



① 2019年11月に駐日トーゴ大使館、一般社団法人日本トーゴ友好協会、現地事業団体であるSDD-TOGO(トーゴ共和国で環境整備、農業活動を行う団体)と協働し、遠隔による460人規模のヘトウイ村の井戸一基の修理及び防壁の設置を行うプロジェクトを実施した。その結果、井戸修復は2週間で完了し、約460人の村人のための安全な飲み水の確保を実現した。また、児童を水汲みの労働から解放した。



② 2020東京オリンピックパラリンピック・ホストタウンでの連携をさらに強化するための、日向市・駐日トーゴ大使館・一般社団法人日本トーゴ友好協会との3者による相互協力協定締結式が行われた。式典で発表したトーゴ共和国アティテコペ村における「安全な水供給事業」「図書寄贈」「トイレ建設」の国際協力で、井戸の修復、2基のトイレ整備、図書の寄贈を行った。

